

予習の実施で授業内の理解力を高め、 主体的学習サイクルを構築する

東京電機大学中学校・高等学校 田畑 佳介

実践背景

【課題意識】

- 国数英と比べ家庭学習の習慣をもつ生徒がきわめて少なく、定期考査前に教材を見直して暗記する姿が多く見られる。
- 歴史の授業において教員が劇場型で講義を展開し、生徒は聞き役に回ってしまっている。

【生徒へのアプローチ 実践から期待する姿】

- 予習→授業→復習のサイクルを回す主体的学習者
- 授業で獲得する情報量の充実化

実践方法

【実施対象】

- 中学社会(歴史分野)
- 中学3年生
習熟度上位クラス 1クラス
基礎クラス 4クラス(内、実践の介入は3クラス)
- 週2単位 1単位50分
- 2024年4月～12月

【実践の内容】

- 授業前の予習活動
 - ・問いづくり
→指定した教科書ページを事前に読む
→疑問に思った点を「あなたの問い」として用意
例)なぜ日本は世界恐慌の影響を受けたのか
なぜ軍部のクーデターが起きたのか
- 授業内活動
 - ・メモを取る習慣づけ
→板書事項+細くメモを書くように指示
→図や表を活用し、関係性を視覚化
 - ・ノートの整理を意識させる
→体制化を促す
→色分け・矢印などで理解を深める工夫
- 振り返りと理解の深化
 - ・授業のまとめ活動
→「わかったこと・わからなかったこと」を一文で整理
→自分の言葉で振り返ることで理解を深める
 - ・歴史タイムライン(年表)の活用
→因果関係・相関関係を整理しながら理解を深める
→理解の可視化につなげる
 - ・次回の問いの提示
→次回の授業内容を授業者が事前に提示
例)なぜ日中戦争から日米戦争に突入するのか
戦争が起きると国民の生活にどのような変化が起こるか

①	月	日	曜日	の授業に向けた取り組み
■ あなたの問いは？				
なぜ そもそも				？
■ 授業で理解できたこと、理解が広がったことは？ 疑問やモヤモヤが残ったことは？				
■ 次回の授業の問い(担当者から) 教科書p ～				

■ あなたの問いは？				
なぜ そもそも 日独伊三国同盟にイタリアがいたのだから				？
■ 授業で理解できたこと、理解が広がったことは？ 疑問やモヤモヤが残ったことは？				
イタリアもムッソリーニに誘われて独逸と同盟していたため、ドイツや日本と同じように孤立していたとわかった。				
■ 次回の授業の問い(担当者から) 教科書p 244～249				
どのように終戦へ向かうのか				

取得データおよび検証方法

【アンケート実施】

年度初めと定期考査後に実施。今年度は5回実施。

- 予習の頻度や内容(授業前の準備について)
- 復習の習慣(授業後の振り返り内容について)
- 授業中の活動(ノートのメモの量や質について)

【検証方法】

生徒の学習習慣の実施割合を算出、定期考査との相関性を分析

- 学習習慣と定期考査得点の相関係数を算出
- 学習習慣が成績向上にどの程度影響を与えたか検証

結果

生徒の活動について、以下①～③で変化が見られた

質問項目	4月始め	12月
①自分なりの問いを持って授業に臨んでいる	2.6	3.6
②人物や出来事を図や表に整理して理解するようにしている	2.6	3.4
③共通点や相違点に注目して理解するようにしている	3.1	3.7

①～③の内、+変化が見られた生徒の定期考査との関係性

	変化が見られた質問項目と その変化		1学期中間 偏差値50との差	2学期期末 偏差値50との差
生徒A	② 2 → 4	③ 3 → 5	-15	+4
生徒B	① 3 → 6	② 3 → 5	-21	+1
生徒C	② 2 → 4	③ 3 → 5	-10	+1
生徒D	① 4 → 2	③ 3 → 1	-3	-15
生徒E	③ 5 → 3		+3	-9

■回答ポイント

- ・授業を受ける意識の変化や情報の整理の仕方を工夫している生徒には、肯定的な得点の変化が見られた。
- ・2学期に入り、授業者側が事象の関係性を図式化して板書する機会を多く持つことを心がけた。そのためか、②の回答ポイントが上昇し、得点への変化も見られた。
- ・因果関係、相関関係をまとめる
歴史タイムライン(年表)を自主的にまとめる生徒が数名見られた。

単元 大正時代①～③		
日本のこと	時代	世界のこと
西園寺公望の閣内閣	1911	
日露戦争でドイツが中立を宣言	1912	
大正維新	1913	
第一次世界大戦の勃発	1914	第一次世界大戦の勃発
	1917	ロシア革命の勃発
シベリア出兵	1918	第一次世界大戦の終結

■ーの変化

- ・①のような予習活動に否定的な生徒は、授業においても受け身の姿勢が見られるようになり、板書をただ写すだけの活動になってしまった。これが知識の定着や理解に結びつかなかったのではないか。
- ・2学期は第一次・第二次大戦期が範囲だったため、多国間の関係性が複雑になり、共通・相違を自分で整理できない生徒が増えたように見られた。

考察と今後の課題

【実践を通じた気づき】

- ・予習と授業のつながりが強いほど生徒の理解力は高くなる。
- ・予習をすることで授業の情報収集量に差がある。
- ・生徒は定期考査の得点の変化理由を自分なりに認知している。

【今後の課題】

- ・生徒の行動変化について、どのような動機付けが働いているかをもとに実践を変化させる。
- ・生徒間で問いを共有したり、他者の問いについて考えを出し合う活動を充実させる。